

米国でのゲームチェンジ

このほど約3年ぶりに米国に出張した。久々の成田空港は新型コロナウイルス流行前と比べると閑散としていた。米国に到着すると、空港は人であふれかえり、日本との違いに圧倒された。待ち合わせた米国法人のスタッフ2人とはウェビ会議で毎週話をしてきたせいか、いつも通りにあいさつできた。距離感を縮めてくれていたウェビ会議シSTEMのありがたみを感じた。

まず訪問したのは、スタートアップの電気自動車(EV)メーカーだ。当社の金属調加飾フィルムを塗装し、めっきの代替材料として外装の大型パーツに採用してくれた。5年前に数百人規模だった同社は、新型コロナウイルスには数千人規模になり、コロナ禍にありながらミシガン州からカリフォルニア州へ開発拠点を引

ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー

島田 康太郎 社長

中堅・中小の現場から



EVで変わる車のデザイン

つ越した。そのスケールとスピード感に刺激を受けた。当社にとってEV専業メーカーの取引先は2社目となる。1社目は採用までのプロセスが非常に短いものの、コストに厳しく、契約には2週間のアナウンスで発注がキャンセルできる文言も入っている。当社にとっては常に緊張を強いられる。

一方で、2社目の会社が最もEVへのゲームチェンジが

も大切にしていることは環境に配慮したものづくりで、多量なコストがかかっても、めっきや塗装は極力なくす。当社の製品コンセプトと合致しており、長年の苦労が報われた。また、環境配慮型だ。例えば「エンブレムに光を透過させて夜でもブランドが分かるようにしたい」といって、当社にとっては常に緊張を強いられる。

EVへのゲームチェンジが

形状も複雑化するために当社の2層シートを「使いたい」といったものもある。

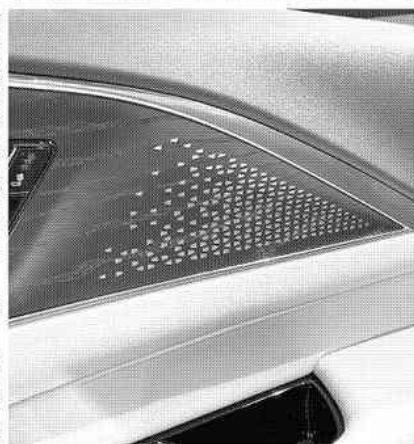
最近ではカントリーリスクが高まっていることを背景に、米国での生産の要望も出てきている。ただ、車の小型樹脂パーツに関しては中国や韓国、メキシコ、インドなどに生産を移管しており、米国内の受け皿は少ない。そんな中、ミシガン州のめっきメーカーが廃液を川に流す事件が起き、脱めっき・脱塗装の動きが進みそうだ。

スタートアップのEVメーカーからはフィルムだけでなく、完成パーツとしての供給も依頼された。既存のサブライヤーが人手不足で、供給がうまくいっていないようだ。

約4カ月の猶予をもらい、12月から米国でパーツの供給も始める。現在は何が起こるか分からない世の中だ。アンテナを高く張り、コンテナを準備して、大きな波を乗り越えていきたい。

|| 随時掲載

《会社概要》	
▽本社	東京都中央区
▽事業概要	合成樹脂や各種材料の加工・販売、コンサルティング
▽設立	2010年4月
▽従業員数	118人(2022年11月時点)
▽売上高	46億7000万円(22年3月期)



米GM「キャデラック・リリック」に採用された金属調加飾フィルムは浮かび上がる模様に光が透過される